TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

シリーズ 詩篇 - 生きることを考える
救い　詩篇 14 篇

2022 年 7 月 23 日&24 日
ジェシー・セザリオ 牧師

TBC ウェスト トウキョウ、TBC 三郷、鳥取、スバ・バプテスト教会、トンガ・バプテスト教会など、オンラインで礼拝している皆さんへこんにちは。今日も主なる神、救い主イエス・キリストの臨在を体験することができますように。始める前に、一緒に祈りましょう。

詩編 14
[1]指揮者によって。ダビデの詩。愚か者は心の中で言う「神などいない」と。彼らは堕落し、忌むべきことをした。善を行う者はいない。[2]主は天から人の子らを見下ろし 神を求める悟りある者はいないかと探られる。[3]すべての者が神を離れ、ことごとく腐り果てた。善を行う者はいない。一人もいない。[4]悪事を働く者たちは誰もこのことを知らないのか。パンを食らうように私の民を食い尽くし 主を呼び求めようとはしない。5 だが、彼らは恐れおののくことになる。神が正しき人の輪の中におられるから。[6]あなたがたが苦しむ人の望みを辱めようとしても主が彼の逃れ場。[7]シオンからイスラエルに救いがもたらされるように。主が民の繁栄を回復されるときヤコブは喜び躍りイスラエルは喜びに包まれる。

はじめに

私は、この言葉を初めて聞いた時のことを覚えています。「愚か者は心の中で言う「神などいない」と」。ここ東京バプテスト教会にいて、デニス・フォールズ牧師が説教をしていました。私はまだ信者になったばかりでした。「ああ、これが愚か者であることの定義なのだ。愚かな人とは、無神論者のことなのだ。」と思ったことを覚えています。

なるほどと思いつつも、人をバカと呼んでいいのだろうかと疑問に思いました。まあ、いいんじゃないかな、聖書に書いてあるから、大丈夫だろうと思いました。ただ、ちょっと失礼な気もする。誰かをバカと呼んでいるようで、自分はそう言わないようにしようと思いました。そして今、私はここでこのことについてお話しをしています。でも、私は全然平気です。その秘訣をお教えしましょう。知性とは関係ないことと、真の無神論者はいないことです。誰一人もです。

The International Journal for the Psychology of Religion に、2013 年にリンデマン氏らが行った興味深い研究結果が掲載されています。この科学的研究は宗教家か無神論者と称している人たちを対象に行われました。センサーを使って、質問に対する感情的な反応を測定するものでポリグラフの嘘発見器テストと似たものでした。このテストは、彼らの感情的な反応を観察するために使われました。

科学者たちは彼らに、さまざまな種類の文章を大声で読むように頼みました。ある文章は中立的な意見を、またある文章は神についての一般的な概念を述べました。どちらのグループも感情に変化はありませんでした。しかし、3 番目の種類の文章では、他人に恐ろしいことをするように神に頼むような文章でした。例えば、自分の両親を全身不随にするように神にお願いする文章がありました。そのような文章をいくつも読み上げた後、彼らには非常に高いストレスがかかりました。実際、ストレスレベルは、無神論者と称している人と神を信じると答えた人は同じ恐怖を示していました。

科学者の結論は、無神論者と自称している人は口では神を信じないと言っていても、実は心の奥深くでは信じている、というものでした。

私たちはここでいくつかのことを学ぶことができます。ひとつは、無神論者と称する人たちは、実はそうではないということです。彼らの無神論者としての世界観は、彼ら自身が経験したことや直感に基づいています。つまり、彼らは実際に知らないのです。

これは、神が存在しないと断言することによってのみ、神が存在しないことを証明しようとする試みなのです。ちょうど私たちが暗闇に目をやったとき、その瞬間「誰かいるかな」と思うのに、「いや、誰もいないよ。ただ想像しているだけだ。」と自分に言い聞かせるのと同じです。

そして、もうひとつわかることは、彼らにとって、暗闇に何があるのか全く分からない存在、神に頼めば超自然的な大きな力を持ってる何かが答える存在がいるのです。つまり、無神論者は常に神を恐れて生きているのです。だから彼らの戦略は押し入れから出てきてしまったモンスター戦っているようなものです。悲しいことに、彼らは神を怖がっているのです。私たちを愛している神を恐れているのです。悲しいことです。

聖書では、彼らは一つのことを言いながら、真実を抑圧し、あたかも真実でないかのように振る舞う愚か者と言っています。外見上は神が存在しないように振る舞いながらも内心では神の存在を知っているのです。言い換えれば、彼らは神と神の御言葉よりも、自分の頭の中で考えた自分の決意を信頼しているのです。それが聖書における愚か者の定義です。つまり神ではなく自分自身を信じていることが不信仰なのです。

しかし、聖書は、**ヨハネの手紙第一 4:18** で、こう言っています。**「愛には恐れがありません。完全な愛は、恐れを締め出します。恐れには懲らしめが伴い、恐れる者には愛が全うされていないからです。」**

無神論は心を朽ちさせる

1 篇：愚か者は心の中で言う「神などいない」と。彼らは堕落し、忌むべきことをした。善を行う者はいない。

1 篇は力強い聖句で、率直に真実を語っています。**「愚か者は心の中で言う『神などいない』と。」**愚か者の愚かさとは、知性がないことではなく、むしろ、その人に威厳、尊敬、信義がないことです。威厳、尊敬、信義とは、古来の概念であり、それがあるからこそ、人々は、そして社会は繁栄してきたのです。残念ながら、現在、私たちはこれらの概念を失ってしまいました。若い男女からこれらの言葉の定義を聞き出すことはできないと思います。聞いたとしても、最新の今まで存在しなかったジェンダー代名詞について話すでしょう。そして、これは深刻な問題です。特に、神を畏れる社会は、そうでない社会よりも長生きし、繁栄していたことを人類学的に証明できるのですから。

聖書は、この問題が、頭で考えることからではなく、心の中で呟くことから始まっていることを明確に示しています。これは科学や論理の問題ではなく、心の問題なのです。心が、誰かに真実を見

出すのを助けるために、最も効果的な場所です。いつもそうとは限りませんが、注意していただきたいのは、心の中こそが、神が無神論者と称している人たちにたいして働く場所です。まず、心です。

詩編 14 から最初に学ぶことは、次のようなことです。神を否定すること、つまり無神論は、神に対する嫌悪感です。神に対する嫌悪感から、人々は他者に対して名誉や尊厳、敬意がない振る舞いをするようになります。簡単に言うと、神を憎み、否定することは、心をねじ曲げることになるのです。

質問です。神の存在と心にはどのような関係があるのでしょうか。

哲学の世界では、神の存在について、いくつかの提案、つまり、論義があります。ここでは、古典的な 4 つの論議を紹介します。

1. 宇宙論的論議 - 神が存在するとして、誰が宇宙を創造し、動かしたのか、という問いかけによって、神が存在することを証明する。神は**ヨブ記 38:4** で論議しています。**「私が地の基を据えたとき、あなたはどこにいたのか。それを知っているなら、告げよ。」**あなたはどうでしょうか。どこにいましたか。
2. 目的議論 - 神が存在することを証明するために、「なぜ、すべてのものは秩序があり、混沌としていないのか。また法律が世界を治めているのか。」を問うことで、神の存在を証明する。神は**ヨブ記 38:33** でこの議論をしています。**「あなたは天の掟を知り、その法則を地に据えることができるか。」**あなたはどうでしょうか。あなたはすべての法則を知り、なぜ物事がそのように動くのかを知っていますか。
3. 存在論的論議 - 私たちは「完全」が存在することを知っているので、その「完全」である存在は神であり、神は存在すると証明する。言い換えれば、もし神が完璧でなかったら、神は存在せず、神ではありません。肉体を持った神であるイエスは、**マタイによる福音書 5:48** の中でこのような主張をしています。**「だから、あなたがたは、天の父が完全であられるように、完全な者となりなさい。」**あなたは完全ですか？神は完全です。
4. 道徳的な論義 - 人が、何が正しいか、正義か、実に良いかについての考えを持つために、それは堕落した人間から来るのではなく、私たちの外にあって、私たちの上におられる神からだけ来るのだということを証明する。これを「超越」と呼ばれています。聖書の中の、**ヨハネの手紙一 4:8** で、次のように教えています。**「愛さない者は神を知りません。神は愛だからです。」**

聖書は素晴らしいですね。このような知的な主張をすべて、とてもシンプルに表現しています。詩編 14 は、神を信じることと、最高の道徳的価値である「愛」とのつながりを強調しています。聖書は、神は愛であると言っています。そして、聖書は、もし誰かが自分の周りの人々をどのように愛するか分からないのであれば、それはその人が神を知らないからだと言います。そのような人は神を知らないのは、神を信じることを恐れているからです。しかし、聖書はすべての無神論者に、愛には恐れはないと言います。恐れはないのです。神は愛なのです。

では、何が問題なのでしょうか。心です。心の問題は、従順になりたくないことです。何をすべきかを言われたくないのです。聖書には、**エレミヤ書 17:9 「心は何にも増して偽り、治ることもない。誰がこれを知りえようか。」**人間の心、あなたの心は、悪影響を及ぼす病気にかかっています。そのため、その病には必ず屈服します。聖書によれば、心は末期状態なのです。

無神論 - あなたが考えている以上に広がっている

2019 年にさかのぼると、あなたにも馴染みのあるウイルスが発生しました。COVID-19 が蔓延し急速に広がっていきました。当初、それはエピデミック（流行病）とみなされました。エピデミックとは、病気が局所的な地域、あるいは他のいくつかの地域で広がっていますが、大きな境界を越えてはいません。

私たちは、この病気が蔓延してパンデミックにならないか、心配しながら見守っていました。パンデミックとはある病気が急速に、そして世界的に蔓延することです。世界保健機関（WHO）は、新型コロナウイルス（COVID-19）の大流行を 2020 年 3 月 11 日にパンデミックと宣言しました。エピデミックとの違いは、いかにどれだけ広範囲に、どれだけ活発に発生したかということです。流行病は一部の地域で広がっていることを意味しますが、パンデミックというのは、それがあちこちで起こっているということです。

私たちは今、この病気がエンデミック（地域流行）期に入るのを待っているのです。今の段階では、病気は世界中に広がっていますが、それほど蔓延していません。パンデミックに似ていますが、よりコントロールされている状態です。こう考えてみてください。パンデミック（世界的大流行）として、世界の大部分に病気のパイプラインが敷かれました。しかし、今、すべてのパイプラインは圧力を失っています。それがエンデミックです。どこにでもある病気ですが、私たちはあまり気にしていません。対処されているので、それほど心配はしていないのです。

人間の健康状態

心の問題は、エピデミック、パンデミック、またエンデミックではありません。人の心の問題は、すべての人にあるからです。聖書が「一人もいない」と言うのは、実践的な無神論者ではない人は一人もいないことを意味します。むしろ、一人一人、自分が罪のエピデミック、パンデミック、、あるいはエンデミックの段階にあるのかを判断したほうが良いのかもしれません。あなたの心はどの段階にいますか。

この詩編の作者であるダビデはこの病にかかっていますか。もちろんかかっています。彼は信じられないほど最悪の罪を犯しました。彼は、嘘をつき、人を殺し、姦淫し、神からの直接の命令に背きました。さらに、サタンがダビデにイスラエルの国勢調査をするように勧めた時、サタンの落とし穴に落ちたことさえあります。だから、ダビデは一人で、主との静かな時間を持つために、座って主のもとで祈っていたのを想像できます。今朝は主との時間を持ちます、と召使に告げ、自分の家の人々にいい所を見せていたと考えたのでしょう。そしてダビデは、主とその愛の律法について黙想し始め、ああ、幸せな日だなと自分に語り掛けるのです。しかし、神はダビデに語ります。

2-3 篇：「[2] 主は天から人の子らを見下ろし 神を求める悟りある者はいないかと探られる。[3] すべての者が神を離れ、ことごとく腐り果てた。善を行う者はいない。一人もいない。」

ジャーン！驚くかもしれませんが、ダビデ、問題はあなたの敵だけでなく、あなた自身にもあるのです。あなたは実践的な無神論者です。神がいることを知っていながら、まるで気にしていないかのように振舞っている。ダビデはきっと、私は油注がれたものだから、聖霊が宿っているから、この聖書箇所は私に当てはまるはずがないと思っていたと思います。そして、ダビデと同じように、私たちも同じことをするのです。「この聖句は私のことではない、絶対」と私たちは考えるのです。

しかし、無神論と実践的無神論は旧約聖書だけで終わったわけではありません。パウロが**ローマの信徒への手紙 3:23** で、このような言葉を用いているのを見ます。**「人は皆、罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっていますが、」**全ての人間の罪深さについて語る時、それは神への信仰がないと言っていました。実際、3 章でパウロは不信仰が人類を破滅に追いやった主な問題であ

ることから始めています。そして、パウロは、私たちはイエス・キリストを信じることによって、私たちの不義を永久に解決することができるようになったと説明しました。

パウロは、信仰が論点であり、イエス・キリストへの信仰が解決策であるという主張を証明しました。聖別された王ダビデの信仰も、割礼されていない家のない放浪者であり後に神の民の父となったアブラハムの信仰が義とされたことを例として持ち出したことを通して証明しました。言い換えると、神への信仰のないことによって引き起こされた不義は、神の御子イエス・キリストへの信仰によって解決されるのです。イエスへの信仰によって、人はアブラハムをかしらとする神の民の一員となるのです。詩編 14 は続けて問いかけています。

4-6 篇:「[4] 悪事を働く者たちは誰もこのことを知らないのか。パンを食らうように私の民を食い尽くし 主を呼び求めようとはしない。[5] だが、彼らは恐れおののくことになる。神が正しき人の輪の中におられるから。[6] あなたがたが苦しむ人の望みを辱めようとしても 主が彼の逃れ場。」

ここでは、神は、無神論者が、あれほど聡明な人々でありながら、神に願うのではなく、兄弟から奪っていることが衝撃だと言います。彼らが食らうパンとは、神の民が築いた繁栄を奪っているという意味です。

これはカインとアベルの物語の再来です。カインのように、彼らは神の目をまっすぐに見て、「私は兄弟の番人ですか？」と言うことができます。それは、神の民が神と共にいることによって祝福されていることがはっきりわかるからです。それが、衝撃なのです。一人の人間が、嫉妬と怒りでいっぱいになって、自分の祝福のために兄弟を殺してしまうのです。主を呼び求めるだけでよかったのです。

そして、カインはこのようなことをしたために、天と地の両方におられる神の前から追放されたのです。主を呼び求めることを拒むすべての者のように、彼らは呪われ、神の前から追い出され、彼らが望むもの、地獄が与えられるのです。

先週の SG レッスンを覚えている人は、CS ルイスの有名な言葉について話したと思います。「最終的には二種類の人しかいない。神に『御心のままに』という人間と、最後には神に『あなたの思い通りになるように』と言われる人間である」。

これが信仰を持たない者の運命であり、彼らは恐怖の中で一人、行くことを選ぶのです。神への信仰を持つよりも、永遠に恐怖に苛まれながら、自分の道を進みたいのです。彼らはそうすることを決めたのです。これこそが彼らの問題なのです。

彼らがすべきことは、主-イエスの名を呼び、イエスを信じることによって救われることです。それが彼らのなすべきことなのです。待ってください。私たちもまたやってしまいました。彼らばかりになっていますが...あなた自身はどうなのでしょうか？

質問です。あなたは、自分が神に対して信仰がないことの罪を自覚したことがありますか？
そうです、キリストを信じる同胞のみなさん、あなたも不信仰であることはありますか。実践的な無神論者になったことは無いですか。

ISR に戻る

エレミヤ書に戻りましょう。**エレミヤ書 17:9** に、次のように書かれています。**「心は何にも増して偽り、治ることもない。誰がこれを知りえようか。」**

私たちは、無神論の問題は彼らだけのものだと考えて安心するようになりました。キリストにある兄弟姉妹の皆さんは、私たちは義とされたとはいえ、まだ聖化される過程にあり、栄光を受けたわけではないことを思い出してください。まだ誰も約束の地、神の住まいには到達していないのです。

イエスへの信仰がなければ、あなたはカインと同じです。あなたはどうですか。行く当てのない放浪者ですか。しかし、イエス・キリストを信じるとき、約束の子、アブラハムの子となり
真の約束の地に入ることが約束されるのです。

ガラテヤの信徒への手紙 3:6-7, 9, 14「[6] アブラハムは神を信じた。それが彼の義と認められた」と言われているとおりです。[7] ですから、信仰によって生きる人々こそアブラハムの子孫であるとわきまえなさい。…[9] それで、信仰による人々は、信仰の人アブラハムと共に祝福されるのです。…[14] それは、アブラハムに与えられた祝福が、キリスト・イエスにおいて異邦人に及ぶためであり、また、私たちが、約束された霊を信仰によって受けるためでした。」

しかし、信者として、あなたはまだそこに到達していないことを自覚しなければなりません。アブラハムと同じように、あなたも聖霊という約束で封印されているのです。それなのに、まださまよっているのです。惑わされて、宗教や律法や規則に従うことがあなたを聖別するもので、約束の地に入れると考えてはいけません。

ガラテヤの信徒への手紙 3:3「3 あなたがたは、どこまで愚かなのですか。霊で始めたのに、今、肉で仕上げようとするのですか。」

質問です。真の約束の地に入るには、どうしたらよいのでしょうか、また、いつ入るのでしょうか？

イエスです。イエスが戻ってくる日に、私たちを約束の地へ連れて行ってくださる方です。

ヨハネによる福音書 14:3「行ってあなたがたのために場所を用意したら、戻って来て、あなたがたを私のもとに迎える。こうして、私のいる所に、あなたがたもいることになる。」

重要なポイントです。**「[8] あなたがたは恵みにより、信仰を通して救われたのです。それは、あなたがたの力によるのではなく、神の賜物です。[9] 行いによるのではありません。それは、誰も誇ることがないためです。」（エフェソ人への手紙 2:8-9）**

恵みは、死に至る不信仰という私たちの罪を覆いますが、イエス・キリストを信じることによって約束された永遠のいのちが与えられます。イエスを信じることで、聖霊によって神の約束と力を経験してください。キリストにある神の愛からあなたを引き離すことができるものがないように。

私たちは到達しましたか

アブラハムが約束の地に入ったかどうか、混乱があるようです。その答えは、イエスでもあり、ノーでもあるのです。彼は約束の地の境界線の内側に立っているときに、神から約束を与えられたのです。しかし、その土地は、アブラハムの子孫がエジプトの奴隷から解放された後、用意されたのです。それまで、神はアブラハムをおおいに祝福されました。

7節:「シオンからイスラエルに救いがもたらされるように。主が民の繁栄を回復されるときヤコブは喜び躍りイスラエルは喜びに包まれる。」

私たちの聖化される過程はこれによく似ています。ある意味到達しているところはありますが、ある意味まだ到達していないところもあります。聖化とは、信者が経験するプロセスであり、それは古いものから新しいものへと変えられる過程なのです。パウロは、私たちが改宗されて信者となった後に、ますます輝きを増すキリストの姿に変えられるようにと命じています（コリントの信徒への手紙二 3:18）。

10歳になる末っ子のシャイロに、自分は「男の子」なのか、それとも「男」なのか聞いてみました。彼は「僕は男の子だよ」と答えました。14歳になる長男のデイドに、自分は「男」なのかと聞いてみたら、彼は「そうだ、男だ」と言いました。私は微笑みながらさらに聞きました。「本当にパパのように100%男なの？」彼は「75%くらいかな」と答えました。いつか、ある日、二人とも間違いなく、「もちろん、そうだよ」と言うに違いないと、私は知っています（祈っています）。

キリストにある私たちも、こんな感じです。聖化はとても遠くにあり、まるで何も起こっていないかのように思えます。毎日毎日、失敗し、不信仰になり、希望を失い、自分を信頼し、サタンの落とし穴に落ちていくのです。私たちは肉においてとても弱いのです。私たちは皆、初めはヘブルライ人への手紙6章の赤ん坊です。

私たちの足を引っ張る肉から、誰が私たちを救い出すことができるでしょうか（ローマ人への手紙 7:24）。救いは、主キリスト・イエスにあります。
だから、兄弟姉妹よ、進み続けなさい。そして、喜びのうちにレースを走り、キリスト・イエスにある神の恵みと、神の力と賜物とを呼び求めてください。

すべてのことについて神を呼び求めましょう。苦難や疑いや葛藤に出会うたびに、イエスを呼び求めましょう。どうしたらいいかわからないとき、主を呼び求めてください。あなたが困っているとき、主を呼び求めてください。

人生のすべての曲がり角で、良い道に進んでも、悪い道に進んでも、イエスを呼び求めましょう。
これは、イエスの内にいる私たちすべてに与えられている約束です。

あなたはイエスの名を与えられているのだから、イエスを呼び求めましょう。

そして、ある日、あなたは振り返って、キリストにあって違う男性、女性、新しい自分になっていることに気づくでしょう。昔の自分とは違って、愛によって行動し、愛によって助け、愛によって良い行い行うことができるように、強くなっていることでしょう。キリストがあなたの内に生きておられることが、間違いなく分かるのです。

7節は、その土地にいたアブラハムからダビデへと繋げてくれます。ダビデ王は約束の地に住んでいましたが、常にその地を守らなければならなりませでした。バビロン捕囚から解放された後のイスラエルの人々も同じで、そこは変わりませんでした。

追放とは何でしょうか？真の追放とは、神の臨在の外にいることであり、神が住まわれる場所から離れることです。

7節によると、アブラハムの子供たちが、霊的な子供として、再び約束の地に入る日が来るのです。それは、メシア・イエスの再臨の栄光の日です。彼の羊は、彼の声を聞いて、彼についていくのです。

もしあなたがイエスを主として受け入れ、神の臨在に入り、神の愛と祝福を経験する約束を受け取りたいのであれば、今すぐにでも、恐れず、心を固くせず、私たちの羊飼いであるイエスのもとに来てください。

キリストがあなたの内に住まわれ、いつの日か新しい自分を見ることができるでしょう。

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書　協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 2018

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

★クラス 101
教会員になるためのクラス
9月10日（日）13：30～17：30
https://t-b-c.us/classes

SG レッスンの PDF
https://t-b-c.us/3022jp

オンライン献金
http://t-b-c.us/give

スモールグループ参加申込み
http://t-b-c.us/sgsu